

一般質問



さこう ひろやす
酒向 弘康 議員

問 車載カメラの設置補助金制度を

答 社会情勢などを踏まえ検討

交通事故対策は、緊急かつ重要課題だ。事故撲滅にむけた安全施策の推進を問う。

問 本町の交通事故の発生状況と推移は。

答〔総務部長〕 5年間の人身事故件数は、150件から180件。毎年200人前後事故に。

問 町内で発生した2つの死亡事故の教訓は。

答 交差点では速度落とし、夜間はハイビーム切替など安全行動を意識する。歩行者・自転車も交差点での左右確認、夜間は反射材着用を心がける。

問 国道248号の信号機数と歩行者用信号機の有無、警察への設置要望は。

答 信号機は29カ所、うち歩行者用は20カ所。横断歩道あつて未設置5カ所を含め、町全体で34カ所を要望。

問 町内の信号機数とLED化率、今後の取り替え計画は。

答 車両用信号機は94カ所。うち54カ所がLED化され率は54・3%。

問 LED化は順次対応。車載カメラは事故防止

トラブル防止、動く防犯カメラとしても大きな効果が期待できる。本町独自の「車載カメラ設置補助金制度」の新設を。補助事業は、社会情勢などを踏まえ検討。



動く防犯カメラとしても効果が期待できる車載カメラ

問 「老人クラブ」の加入率は

答 1913人で18%

本町と近隣の状況は。4月現在、22クラブで1913人、加入率は18%。

岡崎市18・7%、安城市23%、西尾市25・9%、蒲郡市11・2%。

問 気軽に入れる「ポランティアセンター」窓口を設置する考えは。

答 窓口は、社会福祉協議会にあるが創意工夫し充実を図りたい。

問 シルバー人材センターの入会会員数と就業状況は。

答 会員登録は371人。就業者は346人で、就業率は93・3%。

問 民業とのバランスを保つ中で、シルバー人材センターと行政のかかわり方は。

答 会員拡大・就業機会確保の取り組みを支援する。

問 〔健康福祉部長〕 平均寿命本町81・5歳、県81・1歳、全国80・8歳で、健康寿命73・1歳、全国72・1歳。

問 県の「老人クラブ」加入率は18・2%だが、

人生100年時代が到来し、元気なシニアシルバー世代の力を生かした「人手不足解消と生涯現役」の取り組みを問う。

問 本町の平均寿命、健康寿命と国・県レベルの比較。

本町と近隣の状況は。4月現在、22クラブで1913人、加入率は18%。

岡崎市18・7%、安城市23%、西尾市25・9%、蒲郡市11・2%。

一般質問



いとう そうじ 伊藤 宗次 議員

問 日暮れ腹へり事なかれ行政だ

答 補正という手段でやってみたい



ひとつひとつ仕上げていく

問 直近10年間で扶助費が2倍以上だと敵視している。

答 (町長) 住民福祉の増進を図るため、事業を展開していきたい。

問 30年度予算編成方針は借金返せ、借金をするな、仕事するなである。

答 仕事するが、編成方針の真髄ではない。

問 新規施策は既存施策の廃止、縮減とは。

答 コミュニケーションを

とりながら行う。

問 スクラップ&ビルドに必要な財源確保とは。

答 その辺は見据えて当たりたい。

問 既存事業の廃止。縮小で職員のヤル気は。

答 職員の意見も公約の成果にしていきたい。

問 年度予算は、住民の声に耳貸さずになる。

答 色々な方と議論し、相談してやって行く。

問 職員を萎縮させるもの

だ。

答 モチベーションが上がるように進めたい。

問 日暮れ腹へり、事なかれ行政の継続でしかない。

答 理解が得られれば、補正という手段で、やってみたい。

問 成瀬町長は前町長のコピーか

答 30年度予算を仕上げていく

だ。

問 行財政が厳しいと嘆くなら、なぜ法人住民税に適正課税適用し財源確保しないのか。

答 企業誘致を更にやって発展させていく。

問 全国から有能な人材発掘し活用とは。

答 幸田町の住民となつて継続して働ける人材。

問 ごみ袋代値下げは減量化、資源化に逆行するとした前町長だが。

答 今までどおりの環境維持ができるという考え方に立ちたい。

問 減量化、資源化をどう取り組む。

答 理解いただける形で考えたい。

問 モノ言えば口唇寒し職場の監視役が、副町長ではないか。

答 副町長と十分戒めて、今後4年間の任務に当たりたい。

問 やっぱり文章あつても意味不明、コトバあつても中身の前の町長と同じではないか。

答 具体的な言葉になりにくい、新たなテーマを持って取り組みたい。

いく。

問 行財政が厳しいと嘆くなら、なぜ法人住民税に適正課税適用し財源確保しないのか。

答 企業誘致を更にやって発展させていく。

問 全国から有能な人材発掘し活用とは。

答 幸田町の住民となつて継続して働ける人材。

問 ごみ袋代値下げは減量化、資源化に逆行するとした前町長だが。

答 今までどおりの環境維持ができるという考え方に立ちたい。

問 減量化、資源化をどう取り組む。

答 理解いただける形で考えたい。

問 モノ言えば口唇寒し職場の監視役が、副町長ではないか。

答 副町長と十分戒めて、今後4年間の任務に当たりたい。

問 やっぱり文章あつても意味不明、コトバあつても中身の前の町長と同じではないか。

答 具体的な言葉になりにくい、新たなテーマを持って取り組みたい。